

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 1 日現在

機関番号： 12501
 研究種目： 基盤研究（B）
 研究期間： 2010 ～ 2012
 課題番号： 22320026
 研究課題名： 絵巻に描かれた「場」と「もの」に見る中世日本の重層的世界観に関する研究
 研究課題名（英文） A study of worldview of artists and viewers of Japanese medieval picture scrolls —focusing on architecture, environment and objects depicted in picture scrolls
 研究代表者
 池田 忍（IKEDA SHINOBU）
 千葉大学・普遍教育センター・教授
 研究者番号： 90272286

研究成果の概要（和文）：日本中世に制作された多くの絵巻には、主題に沿った「詞」が語り出すプロット（あらすじ）を越え、共通して複数の「場」が設定されている。またそれらの「場」は、一定の要素（「もの」）によって構成される「型」を共有している。本研究では、中世の絵巻に描かれた多様な「場」を、「型」として捉え、描かれた「場」や「もの」と、画中人物の身分や階層、出来事の内容と関係性を明らかにするために、「型」で横断する絵巻情報検索システム」を構築した。

研究成果の概要（英文）：Previous studies on Japanese medieval picture scrolls have created genealogies of individual works and genre based on style and iconology within the context of who, what and why the scrolls were created. In many of these scrolls, depicted images accompanied by poems and words exceed their function as a conveyor of story plots and settings shared in common with other works of art. The setting constitutes structured “forms” through the repeated use of particular elements within a setting. In this study, our research group is building a pattern-based cross searching database of visual information of Japanese medieval picture scrolls to retrace and analyze medieval daily lives in order to identify relationships between social hierarchy and what are depicted on pictures scrolls by treating setting as “forms”.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	6,600,000	1,980,000	8,580,000
2011 年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2012 年度	2,700,000	810,000	3,510,000
総計	14,100,000	4,230,000	18,330,000

研究分野： 人文学

科研費の分科・細目： 哲学・美学・美術史

キーワード： 美術史、文学一般、日本史、絵巻、ジェンダー

1. 研究開始当初の背景

本研究は、平成 19～21 年度の科研費の助成を受けた研究「「もの」とイメージを介した文化伝播に関する研究—日本中世の文学・絵巻から—」（課題番号：19320022）を継承し、その成果の発展・充実を目指してスタートした。独自の取り組みの成果として、絵巻作品の中に「詞」が語り出すプロット（あ

らすじ）を越えて設定される「場」に着目し、またそれらの「場」を構成する一定の要素（「もの」）を含む「型」を抽出して「絵巻画面分析表」（エクセルファイル形式）を作成（研究成果報告書に掲載）、並行して個別の絵巻作品の画面を精査し、描かれた「もの」と「場」の関係を探究した。

この作業を通じて、中世絵巻に描かれた多

様な「場」を「型」として捉え、共時・通時的な関係性を浮かび上がらせることができたが、同時に次なる課題が浮かび上がった。

すなわち、作品ごとのデータベース作成過程での討議・検討の結果、作品を横断し、共通して設定される「場」と使用される「もの」、加えて「人の行為」の比較検討が有効、不可欠であることが明確になった。そこで、中世絵巻を横断的に検討・考察する独自の検索システム（「**型**」で横断する絵巻情報検索システム）の構築を目指すこととした。

絵巻物を素材に描かれた「もの」や人の行為に個別の名付けを行う先学の試みには、『絵巻物による日本常民生活絵引』（渋沢敬三編）、『日本絵巻物全集』附録（角川書店（旧版）1964～1968年）に始まる「絵引」編纂の成果がある。「絵引」が語彙（索引）による検索を実現するのに対し、本検索システムは、「絵引」の発想を継承しつつも、画中を構成する建築、景観や自然描写、そして「もの」と人の行為との関連性を重視し、「型」という視点から絵巻の横断的検索を可能にする点に高い独自性を有すると位置づけた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本の中世社会において、多様な知識や情報を共有し伝達する媒体であった絵巻の描写を手がかりに、身分と階層を跨る絵巻制作者の重層的な世界観を明らかにすることである。

絵巻に描かれた「場」の考察に際しては、それぞれの「場」を特徴付け、画中人物の身分・階層、および絵巻の制作者や享受者の身分・階層を判断する手がかりとなる建築様式、構成要素の格式表現の比較検討が有効、不可欠である。そこで本研究では、先行する科研において進めてきた文学研究者との協働に加え、建築史研究者の参加を得て、中世絵巻に描かれた「表象」としての「場」および「もの」と、「現実」のそれとの参照関係の解明を課題とした。

3. 研究の方法

従来の絵巻研究では、王朝物語、説話文学、軍記、高僧の伝記、社寺縁起、御伽草子というように、物語の主題の相違に応じて分類され、ジャンルごとに作品の特徴や、絵師による表現の違いなどが、精査・探究されてきた。これに対し本研究では、視点を変えて、絵巻の画面を、一定の要素（「もの」）によって構成される「型」という視点から、横断的に捉えなおすことを目指した。すなわち、人々の暮らし、労働、信仰、行事、儀礼などの人の行為／営みと、それが生起する空間（場・環境）を、「型」として捉え、各絵巻作品の中から抽出し、比較検討を進めた。

具体的には以下の項目に必要な情報を入

力し、「型」で横断する絵巻情報検索システム」を構築した。

①作品情報…作品の概要、参考文献等に関する情報。

②詞書概要…段ごとの概要を示す。

③「型」情報…絵一段内で抽出される「行為の型」「空間・環境の型」を抽出し、該当する「型」について示す。

④「キーワード」情報…「型」によって切り出された場面に付随する人物（男女、職掌、しぐさ等）情報、存在する事物（建築、調度等）に関する「キーワード」について示す。

並行して、個別の絵巻作品の表現を熟視し、細かな細部に込められた制作者や注文主の関心を探るための作品調査をおこなった。その結果見出された個別作品の様式、表現の特徴と併せて、「型」の共有、参照関係を検討・分析した。

4. 研究成果

本研究において、最も力を注いだのは、「**型**」で横断する絵巻情報検索システム」の構築である。「型」は二種あり、画中の主要人物に着目する**A「行為の型**」と、建築や描かれた場の性格に着目する**B「空間・環境の型**」である。いずれも、絵巻の絵一段中から抽出された一定の範囲に対応し、複数の型を組み合わせると絵一段が構成される場合もある。また「型」と併せ、「型」を構成し特徴付けるモチーフ（「キーワード」）を選択し、AND検索、またはOR検索することで、（身分や性別に応じた）人の行為と空間・環境（場）との関係、人と人、人と「もの」や動植物との関係等を複数作品の場面から横断的に析出し、分析が可能となる。

A「行為の型」は、そこに描かれた人の行為の性質に応じ、以下の6つの「カテゴリー」に分類し、把握した。

1 人間関係：（「対話」「逢瀬」「授受」「指示」「衆議」「暴力」等）

2 移動：（「訪問」「参詣」「旅」「対向」「出立」「行列」「避難」等）

3 日常生活・労働：（「出産」「病」「死」「思索」「普請」「農務」等）

4 遊興・祭礼・儀礼：（「武芸」「競馬」「蹴鞠」「歌会」「喫茶」等）

5 神仏：（「勤行」「修法」「法会」「参籠」「聴聞」「出家」）

6 非日常・異界：（「霊夢」「示現」「奇瑞」「来迎」「異界訪問」）

*（ ）内は、それぞれのカテゴリーに含まれる「型」の例（型名称）。

* トータルで、現在 55 の「型」を設定。

B「空間・環境の型」は、同質性を考慮して3つのまとまりを想定、以下の17の「型」を設定。

a 建築関係：「住宅」「民家」「内裏・御

- 所]、「寺院」、「神社」、「仮屋」、「厩」
 b 環境：「山中」「田野」「水辺」「海浜」「海上」「往来」「墓地」
 c 異界：「地獄」「浄土・極楽」「異界」

◇キーワード：「型」を構成する主要モチーフを、以下のまとまりを想定して「キーワード」として登録。

- a 人・神仏・動物・植物・自然の要素などの名称
 b 人のしぐさ、すがた
 c 道具、造形物等の名称
 i 衣にかかわる道具（装身具を含む）
 / ii 住にかかわる道具 / iii 食にかかわる道具 / iv 仏具 / v 文房具 / vi 美術・工芸品 / vii 遊具 / viii 楽器 / ix 工具（大工道具） / x 農具・漁具 / xi 武具・武器 / xii 乗り物

検索システムを利用した検索結果はサムネイル（画像）と一覧表（テキスト）で表示、閲覧することができる。以上の検索結果からは、制作者の画面構成の論理、世界観等を探る手がかりが得られ、独自の学術的意義を有する。

具体例をあげれば、「食事をする」「筆を執る」「楽器を演奏する」「眠る」「神仏に祈る」「出家する」「病む」といった場面を、様々な絵巻作品の中から抽出して、比較・検討することが可能になった。こうした普遍的な行為が、描かれた人物の身分や社会階層、職業、ジェンダーに応じ、何時、どのような空間・環境でなされているのかが見えてくる。人の行為が、描かれた建築や環境、多様な「もの」に関係づけられ、身分差や階層差、ジェンダーの差異が描き分けられている様相が、具体的に浮かび上がってきた。

上記の「型」で横断する絵巻情報検索システムの発想と利用成果を生かした事例研究を重ね、2013年1月12日に「絵巻研究の新視点―描かれた人の営み・その環境に着目して」と題したシンポジウムを開催した。本科研の分担・協力者5名が、各自の事例研究に基づき報告をおこない、歴史・文学・美術史の各分野から招いた4名のコメントを得た。絵巻の豊かな情報へのアクセス、またそれらの情報に基づく領域横断的な研究、およびその成果を生かした教育・普及の可能性について、会場の参加者からも意見をj得て、討議を深めることができた。本科研の成果公開を目的とした出版の準備を進めている（平成26年度中に公刊予定）。「型」で横断する絵巻情報検索システムは、現在、スタンドアロン版が完成している。このシステム本体を個別にインストールすることなく、Webブラウザ上から利用可能とするには、公開サーバの構築が必要となり、また絵巻情報入力

蓄積が課題である。さらに学術研究を目的とした利用規定の熟考が不可欠である。継続研究を目指す予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 18 件）

- ① 柴佳世乃、読経道の音曲 ―法会における音曲の解明に向けて―、巡礼記研究、第九集、査読無、近日刊行予定
- ② 池田忍、霊験の証としての富み栄える邸宅の表象 ―「石山寺縁起絵巻」第五巻第一段の読解を端緒として―、千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書『空間と表象』（上村清雄編）、259集、査読無、2013年、192～203頁
- ③ 須賀隆章、酒伝童子退治を描く二つの絵巻に見る武士の表象 ―武装に注目して―、千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書『空間と表象』（上村清雄編）、259集、査読無、2013年、101～113頁
- ④ 柴佳世乃、弥勒寺蔵『読経口伝明鏡集』『法華経声事』解題と翻刻 ―書写山伝来と円空書写をめぐる―、千葉大学『人文研究』、41号、査読無、2012年、205～240頁
千葉大学学術成果リポジトリ：
[http://mitizane.ll.chiba-u.jp/metadb/up/AN00142942/03862097_\(205\)-\(240\).pdf](http://mitizane.ll.chiba-u.jp/metadb/up/AN00142942/03862097_(205)-(240).pdf)
- ⑤ 赤澤真理、室町後期における古代寝殿造理解 ―『源氏物語』注釈書を中心として―、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、F-2、査読無、2012年、837～838頁
- ⑥ 赤澤真理、国文学研究資料館蔵「うつほ物語絵巻」に描かれた住空間 ―九州大学本との比較を中心として―、国文学研究資料館紀要 文学研究篇、38号、査読有、2012年、93～124頁
- ⑦ 森田直美・赤澤真理・伊永陽子、宮内庁書陵部蔵『源語図抄』翻刻、瞿麦、26号、査読無、2012年、35～50頁
- ⑧ 池田忍、ラウンドテーブル14：集合的アイデンティティを構築する象徴的女性表象、歴史学研究（特集 第21回国際歴史学会アムステルダム大会（I））、878巻、査読無、2011年、42～46頁
- ⑨ 土屋貴裕、中近世移行期における伊勢物語絵の図様展開に関する調査研究、鹿島美術財団年報、28号別冊、査読無、2011年、387～397頁
- ⑩ 池田忍、身体をめぐる表象研究の方法と課題、千葉大学人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書『身体／表象 ―通文化的の研究』（池田忍編）、213集、査読無、2011年、i～viii頁

千葉大学学術成果リポジトリ：
http://mitizane.11.chiba-u.jp/metadb/up/BA31027730/2011no.213_i_viii.pdf

⑪ 池田 忍、『千野香織著作集』への応答を試みて、美術運動史研究会ニュース、117、査読無、2011年、1～5頁

⑫ 小澤朝江・小粥祐子・赤澤真理・長田城治・波多野想、トコノマの用法と仕様からみた機能・性格の再検討 ―先祖祭祀と学芸の場としての意味―、住宅総合研究財団研究論文集、37号、査読有、2011年、145～155頁

⑬ 土屋 貴裕、「天狗草紙」の作画工房、美術研究、403号、査読有、2011年、25～57頁

⑭ 水野 僚子、「西浜御殿舞楽之図」にみる雅楽の表象 ―徳川治室における雅楽の意味と機能、国立歴史民俗博物館研究報告（特集：共同研究「紀州徳川家伝来楽器コレクションの研究」）、166号、査読有、2011年、81～104頁

⑮ 伊東 祐子、『源氏物語』の引歌と『蜻蛉日記』の引歌の関係、国文学論考、47号、査読無、2011年、81～95頁

⑯ 森田直美・赤澤真理・伊永陽子、『源氏物語』の住文化とその受容史に関する研究―理想の住空間としての建築・しつらい・作庭―、住宅総合研究財団研究論文集、37号、査読有、2011年、297～307頁

⑰ 土屋貴裕・古川攝一・伊永陽子・菊池理予、前近代を中心とした子どもの衣服と性差に関する調査・研究 ―絵画及び染織資料からみた服装形態とその実態をめぐって―、服飾文化共同研究報告2010、査読無、2010年、69～74頁

⑱ 赤澤 真理、19世紀における『源氏物語』住宅考証書の成立と展開 ―『源氏物語』の考証研究にみる寝殿造理解の研究(1)―、日本建築学会計画系論文集、651号、査読有、2010年、1209～1217頁

〔学会発表〕(計 23 件)

① 柴 佳世乃、古典の世界の面白さ、放送大学千葉学習センター公開講演会、2013年3月16日、放送大学千葉学習センター

② 小澤 朝江、絵巻にみる「地獄」の建築表現、シンポジウム 絵巻研究の新視点 ―描かれた人の営み、その空間・環境に注目して、2013年1月12日、千葉大学

③ 亀井 若菜、絵巻にみる臨終の表現 ―「病」「死」「往生」を横断して、シンポジウム 絵巻研究の新視点 ―描かれた人の営み、その空間・環境に注目して、2013年1月12日、千葉大学

④ 久保 勇、〈武〉を帯びた移動の表現 ―絵巻の行列を考える、シンポジウム 絵巻研究の新視点 ―描かれた人の営み、その空間・環境に注目して、2013年1月12日、千葉大学

⑤ 須賀 隆章、描かれた武士の主従 ―「対話」に注目して、シンポジウム 絵巻研究の新視点 ―描かれた人の営み、その空間・環境に注目して、2013年1月12日、千葉大学

⑥ 中村 ひの、合掌する祖師の表象、シンポジウム 絵巻研究の新視点 ―描かれた人の営み、その空間・環境に注目して、2013年1月12日、千葉大学

⑦ 柴 佳世乃、読経の音曲 ―その芸態と歴史的展開―、名古屋大学大学院比較人文学先端研究特別演習 公開研究集会、2012年12月22日、名古屋大学

⑧ 土屋 貴裕、鎌倉時代の高僧伝絵 ―対立と競合と―、大阪大学大学院文学研究科芸術史講座第2回阪大東美公開講座、2012年10月27日、大阪大学

⑨ 赤澤 真理、室町後期における古代寝殿造理解 ―『源氏物語』注釈書を中心として―、日本建築学会大会(東海) 学術講演、2012年9月13日、名古屋大学

⑩ 成原 有貴、当麻曼茶羅縁起絵巻の制作意図をめぐる一試論、美術史学会 第65回全国大会、2012年5月18日、國學院大学

⑪ 柴 佳世乃、読経道と書写山、書写山円教寺開山堂落慶法要 記念講演会、2012年4月10日、書写山円教寺

⑫ 赤澤 真理、Shinden-zukuri (Heian palace-style architecture) in Japanese Cultural History, Viewed Through Edo Paintings of The Tale of Genji、Columbia University Seminar、2012年2月2日、Columbia University, U.S.A

⑬ 赤澤 真理、近世源氏物語絵に示された住空間 ―古代寝殿造への憧憬と復古表現を支えた考証過程、空間史学研究会、2011年12月1日、東北大学

⑭ 赤澤 真理、王朝における歌合の空間 ―村上朝天徳四年内裏歌合を受けとめた後冷泉朝期の歌合、第35回国際日本文学研究集会(場所)の記憶 ―テキストと空間―、2011年11月27日、国文学研究資料館

⑮ 柴 佳世乃、読経道の音曲について、巡礼記研究会 第8回研究集会、2011年10月23日、神奈川県立金沢文庫

⑯ 土屋 貴裕、絵画史研究は染織技術を明らかにすることができるか ―中世職人歌合絵を起点として―、第35回文化財の保存と修復に関する国際研究集会「染織技術の伝統と継承 ―研究と保存修復の現状―」、2011年9月5日、東京国立博物館

⑰ 赤澤 真理、平安時代における歌合の空間としつらい ―源氏物語に示された住宅観に関する研究、日本建築学会大会(関東)学術講演、2011年8月25日、早稲田大学

⑱ 平野悠子・小澤朝江、『石山寺縁起絵巻』にみる石山寺本堂礼堂の用法と空間の関係、

日本建築学会大会（関東）、2011年8月23日、早稲田大学

⑮ 土屋 貴裕、メトロポリタン美術館所蔵「聖徳太子絵伝」について、東京文化財研究所企画情報部研究会、2011年5月11日、東京文化財研究所

⑯ 土屋 貴裕、『秋夜長物語』の絵画化 —メトロポリタン美術館蔵「秋夜長物語絵巻」の絵画表現をめぐる—、奈良絵本・絵巻国際会議、2011年3月28日、アメリカ・メトロポリタン美術館（紙上発表）

⑰ 赤澤 真理、うつほ物語絵巻に描かれた世界 —住空間表現を中心に—、国文学研究資料館通常展示「新収資料展 物語そして歴史 —平安から中世へ—」講演会、2011年1月24日、国文学研究資料館

⑱ 土屋 貴裕、「是害房絵」成立の周辺、東京文化財研究所企画情報部研究会、2010年9月29日、東京文化財研究所

⑲ 伊東 祐子、天稚彦草子の二系統の本文について、奈良絵本・絵巻国際会議、2010年8月22日、聖徳大学

〔図書〕（計 12 件）

① 柴 佳世乃（共著）、和泉書院、磯水絵ほか『磯水絵先生還暦記念論文集』（担当箇所「平曲と読経道 —書写山をめぐる—」）、2013年5月刊行予定

② 池田 忍（共著）、ミネルヴァ書房、木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江編『よくわかるジェンダースタディーズ』（担当箇所「日本絵画とジェンダー：天皇皇后の肖像」、64～65頁）、2013年

③ 土屋 貴裕（共著）、東京国立博物館、東京国立博物館編『法隆寺献納宝物特別調査概報 33 聖徳太子絵伝（四幅本）1』（担当箇所「聖徳太子絵伝（四幅本）について」、17～22頁）、2013年

④ 伊東 祐子（共著）、勉誠出版、学習院大学平安文学研究会編『うつほ物語大事典』（担当箇所「文学史 —成立論」、46～61頁）、2013年

⑤ 土屋 貴裕（共著）、東京文化財研究所、東京文化財研究所編『染織技術の伝統と継承 —研究と保存修復の現状—（第35回文化財の保存と修復に関する国際研究集会報告書）』（担当箇所「絵画史研究は染織技術を明らかにすることができるか —中世職人歌合絵を起点として—」、207～220頁）、2012年

⑥ 水野 僚子（共著）、藝華書院、小林忠先生古希記念会編、『豊穡の日本美術 —小林忠先生古希記念論集』（担当箇所「聖地の表象にみるジェンダー —宮曼茶羅における〈やまと〉と〈唐〉」、306～311頁）、2012年

⑦ 水野 僚子（共著）、国立歴史民俗博物

館、国立歴史民俗博物館編『楽器は語る —紀州藩主徳川治宝と君子の楽』（担当箇所「絵画にみる徳川治宝の楽器演奏とその意味—新出資料「赤阪御園積翠池試楽図并記」をめぐる—」、137～141頁）、2012年

⑧ 赤澤 真理（共著）、勉誠出版、国文学研究資料館編『近衛家陽明文庫王朝和歌集影』（担当箇所「歌合の場 —女房の座を視点として—」）、2012年

⑨ 亀井 若菜（共著）、昭和堂、滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科編『大学的滋賀ガイド —こだわりの歩き方』（担当箇所「近江を描く絵巻 —「桑実寺縁起絵巻」の景観表現」、107～115頁）、2011年

⑩ 柴 佳世乃（共著）、あるむ、長母寺開山無住和尚七百年遠諱記念論集刊行会編『無住 —研究と資料』（担当箇所『沙石集』の道命和泉式部説話 —読経道伝承から読み解く—」、287～310頁）、2011年

⑪ 水野 僚子（共著）、ひつじ書房、助川幸逸郎、相沢毅彦 編『可能性としてのリテラシー教育：21世紀の〈国語〉の授業にむけて』（担当箇所「美術教育とリテラシー」、127～154頁）、2011年

⑫ 赤澤 真理（共著）、藝華書院、佐野みどり監修・編著『源氏絵集成』（担当箇所「17世紀源氏物語絵が理想とした住宅像 —描かれた清涼殿六条院と画派による相違」、52～63頁）、2011年

〔その他〕

ホームページ等

<http://homepage3.nifty.com/~kubo/projec t1.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

池田 忍 (IKEDA SHINOBU)

千葉大学・普遍教育センター・教授

研究者番号： 90272286

(2) 研究分担者

小澤 朝江 (OZAWA ASAE)

東海大学・工学部・教授

研究者番号： 70212587

亀井 若菜 (KAMEI WAKANA)

滋賀県立大学・人間文化学部・教授

研究者番号： 30276050

久保 勇 (KUBO ISAMU)

千葉大学・大学院人文社会科学研究所・

助教

研究者番号： 10323437

柴 佳世乃 (SHIBA KAYONO)

千葉大学・文学部・教授

研究者番号： 90343087

土屋 貴裕 (TSUCHIYA TAKAHIRO)

独立行政法人文化財機構東京国立博物館・学芸研究部調査研究課・絵画・彫刻室・研究員

研究者番号：40509163

水野 僚子 (MIZUNO RYOKO)

日本女子大学大学院・人間社会研究科・相關文化論専攻・准教授

研究者番号：30469209

(3) 連携研究者

伊東 祐子 (ITO YUKO)

都留文科大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：70448695

(4) 研究協力者

成原 有貴 (NARIHARA YUKI)

学習院大学・文学部・講師

赤澤 真理 (AKAZAWA MARI)

国文学研究資料館・日本学術振興会特別研究員 SPD

須賀 隆章 (SUGA TAKAAKI)

千葉大学大学院人文社会科学研究科博士課程 3 年・日本学術振興会特別研究員 DC1

中村 ひの (NAKAMURA HINO)

千葉大学大学院人文社会科学研究科博士課程 3 年